

「ボランティア養成セミナー」

1. 参加者

| 募集人数 | 応募者数 | 参加決定数 | 参加者数 |
|------|------|-------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 30名 | 36名 | 34名 | 34名（高校生4名、大学生25名、社会人5名） 福井県8名、京都府16名、滋賀県2名、奈良県1名、大阪府2名、兵庫県1名、東京都1名、神奈川県2名、高知県1名 |

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・青少年野外教育施設等でのボランティア活動の役割について理解を深める。
- ・今年度の教育事業の特性に応じた体験活動についての知識や技能を習得する。
- ・自然の中で活動する楽しさを味わい、今後のボランティア活動に対する意欲を高める。

◆期日・期間

令和元年5月3日(金)～5日(日) <2泊3日>

◆後援・協力団体

福井・岐阜・愛知・滋賀・京都各府県教育委員会

◆参加者分析

- ・大学のサークル単位の参加があったほか、近隣高校よりボランティアを志望する高校生や過去に当施設の事業への参加経験のある者が受講してくれた。また、他施設で法人ボランティアの参加や機構の事業への参加を通してボランティア活動に关心を持ち、応募してくれた参加者もいた。高校生から社会人まで、年齢層も幅広い。

◆企画のポイント

| | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
|-------------|----|-------|----|-----------------------------------------------|------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|----------------|----|
| 5月3日 (金) | | | 受付 | 開講式 講師：福井大学教員の水沢義利 | 講師：ラ義 示講 ：少 年 | 昼食 | 講師：ラ義 示講 ：自 然 教 育 施 設 家 職 員 現 | 講師：ラ義 示講 ：自 然 教 | 生講 キテ野 及師 ヤン外 示講 | 講師：ラ義 示講 ：自 然 教 育 施 設 家 職 員 現 | テ 野 及 師 ヤ | テ 野 及 師 ヤ ン 外 示 講 び： ント 炊 ラ 義 自 法 ブ 設 事 自然人 フ 營 の ボ ア 家 職 員 テ イ ア 等 | テ 野 及 師 ヤ ン 外 示 講 び： ント 炊 ラ 義 自 法 ブ 設 事 自然人 フ 營 の ボ ア 家 職 員 テ イ ア 等 | テ 野 及 師 ヤ ン 外 示 講 び： ント 炊 ラ 義 自 法 ブ 設 事 自然人 フ 營 の ボ ア 家 職 員 テ イ ア 等 | 入浴 | テ就 ン寝 ト泊 | |
| 5月4日 (土) | 起床 | 朝のつどい | 朝食 | 講師：全義 日管・赤理 福・習 井救 命部 救急 法等 | 講師：安講 ：全義 日管・赤理 福・習 井救 命部 救急 法等 | 昼食 | 講師：自然 の家職員 | 活動：自然 の家 での ボラ ンティ ア | 自 然 の 家 での ボラ ンティ ア | 活動：自然 の家 での ボラ ンティ ア | 自 然 の 家 での ボラ ンティ ア | 夕食 | 入浴 | 講師：青講 ：少年 やまなみ 保育園園長 | 活動：自然 の家 での ボラ ンティ ア | 宿就 泊棟 | |
| 5月5日 (日) | 起床 | 朝のつどい | 朝食 | 自然活動 自然の家 の家職員 のボラ ンティ ア | 自然活動 自然の家 の家職員 のボラ ンティ ア | 昼食 | 自然 の家 職員 登録制度 | ボラ ンティ ア登 録制 度 | ボラ ンティ ア登 録制 度 | ボラ ンティ ア登 録制 度 | ボラ ンティ ア登 録制 度 | ふり かえり | 閉講式 | | | | |

○講義「ボランティア活動の意義」

講師：福井大学教育学部芸術・保健体育教育講座 教授 水沢 利栄 氏

○講義「青少年教育における体験活動」

講師：やまなみ保育園園長 大森 和良 氏

○講義・演習「安全管理 救命救急法」

講師：日本赤十字社福井県支部指導員 清水 一史氏 水野 裕子氏

○講義「青少年教育施設の現状と運営」

講師：国立若狭湾青少年自然の家 次長 秋山 洋

○講義・演習「ボランティア活動内容の理解」

担当：国立若狭湾青少年自然の家 主任企画指導専門職 大崎直子

○演習「ボランティア活動の技術～テント泊準備・野外炊飯・たき火・テント泊～」

担当：国立若狭湾青少年自然の家 事業係員 井石 伸洋

国立若狭湾青少年自然の家 法人ボランティア

- ・実習では、当施設でのボランティア活動において実践できる内容を工夫し、特に当施設に活用できるスキルの向上が図れる内容として、野外炊事・テント泊・キャンプファイヤーを実施した。
- ・ボランティアによる自主企画「子どもキャンプ」の実施に向け、まずはボランティア自身に自然に親しみを持ってもらうこと、自然体験活動の楽しさを味わってもらうための時間を設定した。その体験を踏まえて、グループワークで企画を協議する流れでプログラムを組んだ。
- ・講師については、機構で決められているカリキュラムに即し、その分野でご活躍されている方を招聘させていただいた。安全管理の講義・演習については心肺蘇生だけでなく、子どもに起こりやすいけがの防止と応急手当の方法についても学べるようにした。

◆運営のポイント

- ・必要な講義と演習（理論と実践）が往還できるようにプログラムを組むようにした。
- ・高校生以上の大人を対象にした事業ではあるが、ゆとりのあるプログラムにすることや演習時間を長くとれるよう心がけた。

◆安全管理のポイント

- ・野外炊事やキャンプファイヤーなどは、刃物や火を取り扱う際の注意や装備、服装などを職員とも確認しながら行うようにした。
- ・テント泊は職員も一緒にい、緊急時に対応できるようにした。
- ・フィールドに出て行う演習では職員が海、川、山に職員を配置した。また、ボランティアの代表と無線で連絡も取れるようにして活動した。ボランティア自身も子どもたちと外に出て活動する際の注意点を確認しながら活動できるように事前に指導することで注意喚起した。

3. アンケート結果

(1) アンケート (4満足 3やや満足 2やや不満 1不満)

| 参加者 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|-------------------|-----|-----|----|----|
| 事業全体をとおしてどうでしたか | 88% | 12% | 0% | 0% |
| この事業のプログラムはどうでしたか | 80% | 20% | 0% | 0% |
| この事業の運営はどうでしたか | 83% | 17% | 0% | 0% |

(2) 参加者の声

○特に印象に残った講義・演習

講義「青少年教育における体験活動」「ボランティア活動の意義」

・子どもたちへの接し方にすごく納得した。

- ・子どもたちがさらに成長できたり発見できたりする方法を考えておられた。
- ・縛らず自由に自然体験をするという話に同意
- ・子どもがどう活動すれば喜ぶのか、子どもしさというのを学べた。
- ・自然に触れることでえられることや子どもへの働きかけの工夫がとても勉強になつた。
- ・キャンプにもっと行きたい気持ちになった。
- ・子どもたちってこんなことができるんだ！という発見があった。自然の中で成長していく子どもたちの様子が印象的だった。
- ・救急のことや防災のことなど、これからボランティアに活かされることがたくさんあった。
- ・安全面への配慮も大切だと思いました。
- ・救急について、ボランティアとしての自覚について学ぶことができた。

講義「青少年教育施設の現状と運営」

- ・施設の歴史や現状、課題などがよくわかった。
- ・日頃大切にしたいと思っていることの確認ができた。

演習「ボランティア活動の内容理解」

- ・普段できない自然とのふれあいやそれによって、小学生くらいの気持ちに戻って遊ぶことができた。
- ・みんなで何を感じたか話し合って一つのプログラムを創るのがふりかえりもできてよかったです。
- ・外に出ての活動、川・海で思い切り楽しみました。日常では味わえない体験でした。
- ・実際にボランティアとして参加するに当たり、どのようにして計画しました実行するかについてとても参考になったから。
- ・いつも子どもたちとの関わりの前に準備をせずに本番という形でボランティアをしてきたので、子どもたちに何をさせたいのか、配慮すべき点などボランティア側としての勉強をするのが初めてですごく貴重な体験でしたし、他のボランティアの意見を聞けたのも大きな発見になりました。
- ・企画を考えただけでわくわくした。

演習「ボランティアの技術」

- ・キャンプファイヤーは小学生以来やっていなかっただけど、心の底から楽しめた。
- ・外でのキャンプが初めてで、外でたいたご飯やカレー、カートンドックの味が忘れられません。

○感じた事

- ・自然の雄大さ、偉大さを感じました。
- ・久しぶりに体を動かして小さい子どもに戻ったみたいで楽しかった。
- ・実際に子どもたちが体験することを経験することで、自分が感じたことを子どもたちがどう感じるのか興味が湧いたし、共感したいなと思いました。
- ・参加者のボランティアに対する思いもすごく伝わってきたし、自分ももっと深くボランティアについて考え、関わっていこうと思った。
- ・ボランティアは人間としての幅も広がるし、自分自身を豊かにしてくれるものだなと感じました。
- ・僕たちが知識を積むことで子どもたちの危険回避につながっていくし、ボーダーラインが分かっていると多少の危険なことも経験させることができ、子どもたちの成長につなげていけると感じました。
- ・子どものスイッチONにさせるためにも、私たちボランティアが知識を身に付け、見守ることが大切だと思いました。
- ・前と比べて講義が少なくなったと思ったら、半日、班での自由行動で、どんどん外に

行っている気がします。最終日みたいな話し合える時間がもっとあればと感じました。
・他者とグループワークすることで新しい学びもありました。

○学んだこと

- ・何事も経験してみなければ分からぬということを学びました。
- ・実際、子どもたちにどのように楽しんでもらえるかを考えたり、どのように過ごしてもらいたいか考えることが多かった。
- ・応急処置の仕方。初めてAEDの使い方を学びました。
- ・安全の面はよく考えていいかないといけないと思いました。
- ・山を下ってお尻などが汚れた時、「汚れたなあ」と言うより、「地球のスタンプ押せた」と声かけする方が100倍楽しくなる。声かけやどうとらえるかという大切さを学んだ。
- ・キャンプの設計と運営。
- ・楽しさを知る半面、自然の怖さを知れたと思います。自然では子どもたちから目を離してしまうと本当に危険だと感じました。
- ・年代の違うボランティアのボランティアに関する考え方や考察により、自分の考え方の角度や視界が変わった。
- ・子どもたちに指導する難しさ。

○今後に向けて

- ・子どもたちが自ら動いて自立する力を養っていくよう関わるようになりたい。
- ・まだ、子どもたちと一緒にキャンプをやったことが無いので、次はそれに参加してまた新たな経験をしてみたいなと思います。
- ・1回1回のキャンプを充実させ、子どもたちと一緒にいろんなことを学び経験していくたいと思います。
- ・今回学んだ子をと活かし、私自身も成長していけたらと思います。
- ・ボランティアでもっといろんな人と関わりたいと思う。
- ・ここでの学びを後輩にも伝えるなどしていきたい。
- ・学生の間だけでなく、社会に出てからも可能な限り続けていきたい。
- ・山や海に関してもっと知識を身に付けたい。
- ・広い視野を持って社会と向き合っていけるようにしたい。
- ・他施設での事業にも参加したい。
- ・グループワークなどで話し合いをして企画を立てることがすごく面白かったので、今後もそういうことができる活動をしたいと思った。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・ボランティア自身が自然体験を行うことで、「子どもたちにどんな活動をさせたいか」、「どんな支援ができるか」、「安全に対しての注意点は何か」を感じてもらうことができたのではないか。
- ・講義と演習を織りなすことで、講義で学んだことについて演習を通してさらに深めてもらったり、演習を通して感じたことを講義によって理論としても深めてもらったりしていたと思う。
- ・高校生から社会人まで、参加者が互いの考えを共有して交流できたことがよかったです。
- ・自分自身の成長や今後のボランティア活動への意欲を高めてもらうことができた。
- ・講師の先生方の話は参加者にとって学び多いものになっていた。先生方には演習や歌の演奏などを織り交ぜて、参加者が聞きやすいように内容を工夫していただいた。

(2) 課題

- ・3回生のボランティアを講師として参加してもらっていたが、彼らをどのように活躍させ、さらなる成長につなげていくかという点では、もう少し職員と上級生ボラがしっかりととした打ち合わせを行い、彼らにどのように動いてもらうのか、それに対してどう支援するのかといったことをした方がよかったです。
- ・事業の内容に関する情報が少なかったとアンケートからも声が寄せられた。講義の内容や

演習の内容について、もう少し詳細な情報を前もって知らせられるように準備できるようにないたい。

- ・2日目の午後の活動についてはいろいろな活動を想定して、個人の準備物（海、山、川で必要な装備や服装）を連絡すること、また、職員の配置を考えていかなければならぬ。
- ・ボランティア同士の交流の場が少なかった。開講式の後、すぐに講義に入ったため、自己紹介の時間、IBの時間を十分に確保することできなかつた。

(3) 来年度に向けて

- ・内容面については概ね今年度の流れはよかつたのではないかと考える。しかし、プログラムの順序、時間の組み方を工夫する必要がある。講師の先生方の都合もあるので、思い通りの流れで、プログラムが進行できないこともあるかもしれないが、今年度の課題を改善する形で来年度につなげはどうか。

5. 活動の様子





指導者養成研修事業

